

ミロクイン 彌勒院 珠洲郡宮犬に在つて、眞言宗に屬し、醫王山と號して古へ木郎寺の衆徒の一であつた。能登名跡志に、『松波村より不動寺村に行くに、宮犬村というてあり。彌勒院というて密寺あり。常陸介祈願所にて、鑑等今に在り。』と見えて、その常陸介は松波氏である。寺藏に絹本着色彌勒菩薩像一丈一〇寸・横五四寸あるが、鎌倉末期乃至室町初期の作と認められる。

ミロクカゼ 彌勒風 龜尾記に河北郡彌勒繩手村のことをいうて、この地は東に越中小原越の道があり、その谷深く風烈しい。俗に之をみろく風といふとある。

ミロクジ 彌勒寺 三代實録元慶八年十二月十六日に『加賀國加賀郡彌勒寺預于定額。』とあり、仁和元年二月十六日の條にも同じことを載せる。いづれが衍文なるべく、類聚國史には後者を採つてゐる。今河北郡に彌勒繩手がある。

ミロクドウ 彌勒堂 鳳至郡輪島に在つた。能登誌に、『河井町の後に當り、川縁に彌勒堂といふあり。むかしは能き社にてありしといへり。今祭神保食命とし、九月七日八日河井町に祭禮あり。此宮森に酒塚といふあり。昔此塚より美酒涌出るよし。』と記する。

ミロクナハテ 彌勒繩手 河北郡井上庄に屬する部落。三代實録に見える加賀郡定額彌勒寺のあつた所であらう。

ミロクヤマ 彌勒山 源平盛衰記壽永二年に、『一手は根井小彌太を大将として二千餘騎、越中國住人蟹谷次郎を案内者に付られて、鷺島を打廻り、松永の西のはづれ小耳入を透て、鷺尾へ打上り、彌勒山を引廻す。』と見え

る。この彌勒山の位置は知れない。

ミワカンベエ 三輪勘兵衛 初名渡邊小源太。外祖父三輪藤兵衛の致仕した時、その配分知百石を受け、三輪氏を冒して小々將に任じたが、元和元年實兄伊織の歿するや、その後を承けて二百七十石を領した。然るにこの時の知行狀に三輪小源太と認めてあつたから、遂に渡邊氏に復しなかつた。寛文九年六月歿。

ミワキハチロウ 三輪喜八郎 鹿島郡笠師の人。初め笠師組の十村となり、後に中島組に轉じたが、その間植林を奨励し、用水路を開鑿する等の功が少くなかつた。寛保三年歿。

ミワサンイン 三輪三隠 平井屋七左衛門と稱し、大聖寺の市人で質商を營み、後に醬油醸造を業とした。夙に歌道に志し、越前の橋際覽と親交があり、嘉永元年町年寄となり、明治二年一代士族心得として三輪氏を稱した。明治四十二年三月歿、年八十八。

ミワジンジャ 三輪神社 加賀郡の式内社である。式内等舊社記に、『三輪神社。式内一座。石浦郷石浦村鎮座。稱石浦山王。石浦郷七ヶ村惣社。今屬石川郡也。』とあり、森田平次の石浦郷社來歴考にこの社のことを述べて、『慶長十一年の石浦七村氏子連署訴狀に、同七年三月石浦村山王遷宮の事を記載すれば、慶長以前より既に山王と稱し、往古より

の社號は早く失したるなるべし云々。河北郡北中條村の山王社をば式内三輪神社なりとの説もあれど、此社とても微證なし。』と言つて、矢張り三輪神社であつた如き口吻であるが、石浦山王の三輪神社たることは根據確實でない。

ミワジンジャ 三輪神社 ↓チュウジョウサンノウジンジャ 中條山王神社。

ミワタダアキラ 三輪允明 通稱藤兵衛・中務。初諱宗雄。七郎兵衛宗武の養子。寶永四年遺知三の一を襲ぎ、後本祿千石を受け、大小將・同番頭より漸く進んで御馬廻頭に至り、明和五年致仕して信叟と號した。

ミワチブザエモン 三輪治部左衛門 三輪齋吉政の三男。祿三百石。大坂再役に從軍して、總構内及び三ノ丸にて敵首各一つを取つた。後富山侯の從臣となつた。

ミワテルヒロ 三輪照寛 通稱勘兵衛。前田兵部の家老であつたが、田中躬之の門に入つて歌道を學び、傍ら法制に通じ、安政二年藩學明倫堂の國學代講となり、文久元年皇學主講加人に進んだ。著す所に夏股周三代田制考・令集解訓點があり、明治四年十月歿。享年六十三。

ミワテルミチ 三輪照路 通稱小源太。父は照寛。國學を能くし、明治五年宣教講義方出仕を命ぜられ、七年白山比咩神社禰宜兼少講義に轉じ、九年加賀國第廿二區副長となり、同年第五大區小十區戸長に移り十二年に及ぶ。晩年胃癌を患ひ、二十年九月八日五十歳で歿。遺囑してその骸を解剖に附せしめた。良家の人にして解剖せられしもの實に照路に初る。

ミワナガヨシ 三輪長好 通稱作藏・主水・志摩。初諱一信。尾張の人。父は次郎作。母は前田利長の乳母法名妙意。長好八歳にして利家に荒子に仕へ、利長を經、利常に大坂の役に從ひ、祿七千二百六十石に至り、元和五年剃髮して法受と號し、本祿千石を割いて養

老俸としたが、寛永七年八月齡七十餘を以て歿。法名日好。之を日敬に作るものは書寫の誤である。

ミワメトモ 三輪宗供 通稱六承。藤兵衛吉次の四子で、配分知二百石を領し、御馬廻組に班し、割場奉行・奥小將横目に歴任し、寶永七年六十歳を以て歿した。

ミワヤマ 三輪山 ↓ミノワヤマ 三輪山。ミワヨシツグ 三輪吉次 通稱藤兵衛。齋吉政の子。萬治二年定番頭を命ぜられ、御先手物頭から兼帯した。寛文六年歿。

ミワヨシトミ 三輪吉富 通稱彌七郎。藤兵衛吉宗の子。天正五年俸二百八十五俵を受け、十八年六月廿三日武州八王子の陣に戦死した。

ミワヨシノブ 三輪吉信 通稱主水。初諱之次。長好の子。前田利長に仕へて千石を食み、長好告老の後祿五千石を襲ぎ、弟左門の歿後亦その千石を併せ、通じて七千石を受け、足輕頭となり、大坂の再役に敵首を獲、寛永八年光高の傳となつて老臣に列し、十一年江戸に歿した。

ミワヨシマサ 三輪吉政 通稱齋宮。實は三輪長好の二子で、吉宗の義子となり、吉宗の嫡子吉富の女を配としたもの。初め前田利長に仕へて祿三百石を受け、大聖寺の役に功があり、慶長十八年吉宗の退老するに及び、その祿を併せて千六百四十二石五斗を領し、父の職を襲いで能登所口に居り、十九年十月歿した。

ミワヨシムネ 三輪吉宗 大和の人。藤兵衛と稱した。初め越前の朝倉義景に仕へたが、天正五年越前府中に於いて前田利家に仕へ、